

駿河湾のシラス船曳網で獲れたレプトセファルス幼生

久保田 正

ウナギ目魚類やカライワシ目魚類は、その成長過程で成魚とは著しく異なる形態を示します。それはレプトセファルス (*Leptocephalus*) 幼生、または葉形仔魚と呼ばれる期間を経過し、その後に変態を行います (本報告では以下レプトセファルス幼生と呼ぶ)。この幼生期の特徴は、体は透明で葉状であり、両顎には鋭い歯を有し、体内には多量の水分を有することによって浮力が増し、プランクトン生活に適応しています。

このような特徴のあるレプトセファルス幼生が、駿河湾内で操業されているシラス船曳網にシラスと共に混獲されます。こ

の幼生は、シラス漁業者や生産者にとっては不要物なので厄介者として扱われています。本報告では三保半島周辺海域で2年間 (1994 ~ 95年) に亘り、漁獲物中より出現種を調べ選別された30種のうち、個体数の多かった上位8種を紹介します (図1, 1~8)。

その2年間の季節的な出現傾向は、2~5月迄は6種であり、6月は全く採集されず、7月中旬以降は、急激に種類数、個体数共に増加し、8, 9月に29種でピークを迎えるという特徴が見られました。



1. カライワシ, *Elops hawaiiensis* (カライワシ科)
3, 7, 10 ~ 12月に出現、本科で唯一の種類
TL 33.0mm



5. クロアナゴ, *Conger japonicus* (アナゴ科)
2, 7 ~ 12月に出現 TL 88.8mm



2. ウツボ科の1種, *Muraenidae* sp. 1 (ウツボ科)
7 ~ 10月に出現、本科では他に2種が出現
TL 80.9mm



6. ハモ, *Muraenosox cinereus* (ハモ科)
7 ~ 12月に出現 TL 88.3mm



3. ウミヘビ亜科の1種, *Ophichthinae* sp. 1 (ウミヘビ科)
7 ~ 10月に出現し、本亜科に属する種類数が最も多かった TL 97.5mm



7. スズハモ, *Muraenosox bagio* (ハモ科)
7 ~ 10月に出現し、個体数はマアナゴに次いで多かった TL 90.8mm



4. マアナゴ, *Conger myriaster* (アナゴ科)
2 ~ 5月に出現、個体数は最も多かった
TL 96.2mm



8. シマイトアナゴ, *Saurenchelys lateromaculatus* (クズアナゴ科)
8 ~ 12月に出現 TL 62.9mm

図1 シラス船曳網で獲れたレプトセファルス幼生類
(出現種30種中の個体数の上位8種)

番号2, 3, 6は望岡ほか (2001)、その他は塩澤・長坂 (1997, M.S.) よりそれぞれ引用